

ウェブアクセシビリティに関するセミナー

平成 28 年 5 月 24 日に標準化委員会(委員長:伏見諭 東海大学情報教育センター)の主催によりウェブアクセシビリティに関するセミナーが開催された。参加者は関係者も含め 64 名。

伏見委員長が国際標準化会議で海外出張中のため、川田副委員長の司会と進行で進められた。

ウェブアクセシビリティとは、主に高齢者、障害のある人及び一時的な障害のある人がウェブコンテンツを知覚し、理解し、操作できるようにする(JISX8341-3:2010 序文)ことである。現代社会はインターネットに代表される情報機器の利活用が生活の重要な位置を占めている状況にあり、活用出来る健全者と利用できない障がい者の差を縮めることが重要な課題となっている。

初めに東洋大学教授の山田肇氏より、「障がい者政策の動向とみんなの公共サイト運用ガイドライン」について説明が行われた。2006 年第 61 回国連総会で障がい者権利条約が採択され、2014 年に日本が 140 番目の締結国となった。これにより障がい者基本計画が策定され、ウェブコンテンツを含む情報通信機器等は障がい者を含む全ての人に配慮し、アクセシビリティの向上に向け取り組み、対象範囲や実現レベルを段階的に拡大することとなった。これらの公共団体の取り組みに受注側も早期対応が必要である。

講演では取り組み状況を確認し、改善成果が点数評価される評価シートなどが紹介された。

続いて NTT サービスエボリューション研究所の渡辺昌洋氏から JISX8341-3、「情報通信機器分野のアクセシビリティガイドライン第 3 部:ウェブコンテンツ」の特徴や具体的な達成基準の紹介が、NTT クラリティ(株)の小高公聡氏より視覚障がい者の立場からどのように情報機器を活用しているかの実例が実演を交えて紹介された。(佐藤)

